

## 小規模校における今後の教育の展開について

令和4年11月30日 総合教育会議

### 1 はじめに

本市では、平成20年度に小学校の統合基本方針を策定し、複式学級の解消に向けて学校の統廃合を進めてきた。

現在、ICTを効果的に取り込んだ新たな教育を模索する時期が到来し、小学校を核とした地域コミュニティの再構築が求められている中、周辺部の小学校は児童数が減少する傾向が加速しており、小規模校のメリットを生かしデメリットを最小化する教育を展開していく必要がある。

### 2 小規模校におけるメリット・デメリット

	メリット	デメリット
学習面	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。</li> <li>学校行事や部活動等において、児童生徒一人ひとりの個別の活動機会を設定しやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>集団の中で、多様な考え方に触れる学び合いの機会や切磋琢磨する機会が取りにくい。</li> <li>運動会などの学校行事や音楽活動等の集団教育活動に制約が生じやすい。</li> <li>児童生徒数、教職員数が少ないため、多様な学習・指導形態が取りにくい。</li> </ul>
生活面	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。</li> <li>異学年間の縦の交流が生まれやすい。</li> <li>児童生徒の一人ひとりに目がとどきやすく、きめ細かな指導が行いやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>クラス替えが困難なことなどから、人間関係や相互の評価等が固定化しやすい。</li> <li>児童生徒の特別活動において切磋琢磨する機会等が少なくなりやすい。</li> </ul>
学校運営面	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密に取りやすい。</li> <li>学校が一体となって活動しやすい。</li> <li>施設・設備の利用時間等の調整が行いやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年別や教科別の教職員同士で、学習指導や生徒指導等についての相談・研究・協力等が行いにくい。</li> <li>一人に複数の校務分掌が集中しやすい。</li> <li>教員の出張、研修等の調整が難しくなりやすい。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>保護者や地域社会との連携が図りやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>P T A活動等における保護者一人当たりの負担が大きくなりやすい。</li> </ul>

### 3 小規模校のメリットを生かしデメリットを最小化するための教育活動例

- ICTを効果的に活用し、一定レベルの基礎学力を全ての児童生徒に保障
  - ・ 個別指導や補習の実施、学習内容の定着の時間確保、休業期間を通じた繰り返し指導の徹底
- 少人数を生かすことで教育効果を高めることが期待できる教育活動の推進
  - ・ 外国語の発音や発表、プレゼンテーション、音楽・美術・図画工作・体育等の実技

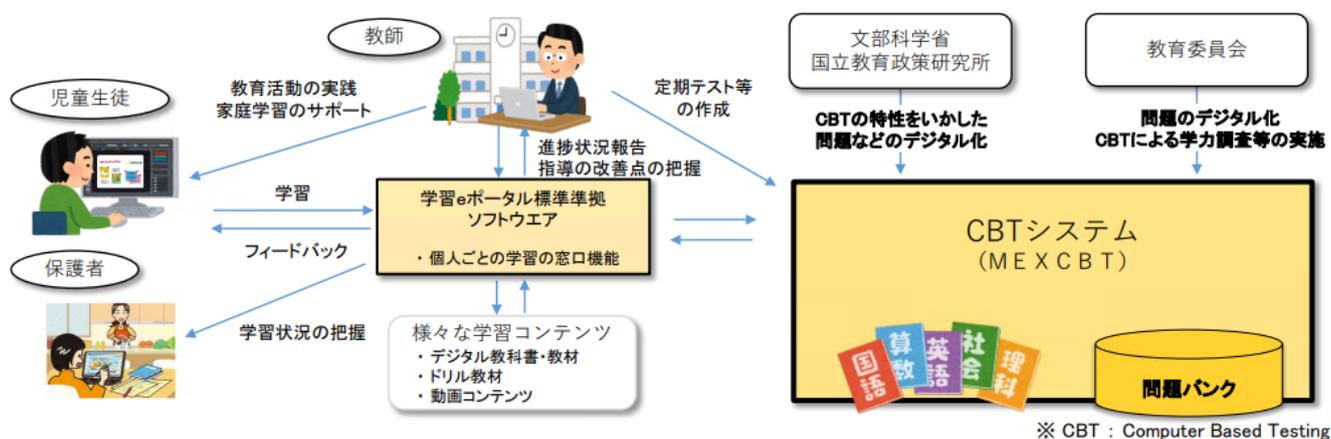
- 少人数を生かした課題発見・解決学習の推進（主体的、対話的で探究的な学び）
  - ・総合的な学習の時間や特別活動を中心に、児童生徒が主体的に学習を進め、踏み込んだ意見交換により、学習内容を深める学びの構築
- 児童・生徒会活動や班活動等、全ての児童生徒が様々な役職を経験
- 機動的な連携による地域との人・ものなどの様々な体験活動の充実

#### 4 小規模校における「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な推進

##### (1) 端末の活用による個別学習

学習の窓口となるポータルサイト（学習 e ポータル）の活用。

デジタルドリルや中学校デジタル採点システムを活用し、児童生徒個人や学級の学習ログ（学習履歴）から、定着が不十分な内容を把握し、それぞれの実態に応じた指導を行う。



##### (2) 自由進度学習

自由進度学習とは、子どもたちが教科書やプリントなどの教材を使い、自分のペースで学びを進めていく方法。



「自由進度学習」の教室で繰り広げられる光景

《参考：自由進度学習の取組（廿日市市立宮園小学校）》

### (3) コミュニティ・スクールを活用した体験的・探究的な学習

豊かな人間性や社会性をはぐくむ過程においても、広く直接体験を重ねることが極めて重要である。現実の世界や生活に向き合い、自然や社会、人との関わりを通じて、課題発見・解決力を育成するとともに、人間性を豊かにしていく。



(体験的・探究的な学習)

川やその源流について調査することで、環境について考える。

(ふるさと学習)

地域の人が講師となって、地場の産業についての調査体験活動や地域の野菜を栽培する活動等を通して、ふるさとについて考える。

先人の努力と工夫に気付くとともに、ふるさとを大切にすることを育む。

### (4) 協働的な学びの充実のためのラーニングルーム（協働学習ルーム）の整備

GIGAスクール構想による1人1台端末の日常的な活用に伴う個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向け、その基盤となる学習空間も、画一的・均質的なものから、柔軟で創造的なものに転換していく。

このため、余裕教室等を活用した教室サイズの変更、既存の面積資源の有効活用・再配分を行い、多様な学びの姿に柔軟に対応できる創造的空間の整備を推進する。

(多様な学習活動を展開できる空間)

(異学年での議論や学びが可能となる空間)

移動が容易な椅子・テーブルを設置し、児童生徒同士が話し合いながら学びを深める。



(遠隔授業が可能となる空間)

大型プロジェクター・スクリーンを設置し、オンラインによる小中連携や海外の児童生徒と交流し、多様な文化に触れる。

画面上で共同作業し、学びを深める。

## 東広島市における小規模校等について

## 1 学校規模について（普通学級）

区分	過小規模	小規模	適正規模	大規模	過大規模
小学校	1～5 学級	6～11 学級	12～18 学級	19～30 学級	31 以上

## 2 小学校の状況（令和4年5月1日現在）

学校名	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
西条	4	5	5	5	5	5	29
寺西	4	4	4	3	3	3	21
郷田	2	2	3	2	2	2	13
板城	2	2	2	2	2	2	12
三永	2	2	2	2	2	2	12
東西条	3	3	3	2	2	2	15
平岩	3	3	2	2	2	2	14
御園宇	3	3	3	2	2	2	15
川上	4	4	4	4	4	3	23
原	1	1	1	1	1	1	6
吉川	1	1	1	1	1	1	6
八本松	3	3	4	3	3	3	19
志和	1	1	2	1	1	2	8
小谷	1	2	2	1	1	1	8
高屋東	1	1	1	1	1	1	6
高屋西	4	4	4	4	4	4	24
造賀	1	1	1	1	1	1	6
高美が丘	3	3	2	3	3	3	17
三ツ城	4	4	4	3	3	4	22
板城西	1	1	1	1	1	1	6
上黒瀬	1	1	1	1	1	1	6
乃美尾	1	1	1	1	1	1	6
中黒瀬	3	3	3	3	3	3	18
下黒瀬	2	2	2	2	2	2	12
福富	1	1	1	1	1	1	6
豊栄	1	1	1	1	1	1	6
河内	1	1	1	1	1	1	6
入野	1	1	1	1	1	1	6
木谷	1	1	1	1	1	1	6
三津	1	1	1	1	1	1	6
風早	1	1	1	1	1	1	6
もみじ	0	0	0	0	0	0	0
龍王	5	6	5	5	4	4	29